

USAとミンダナオの空

2018年4月25日・勝福寺公演報告 by 林貴子&藤谷知道

ミンダナオ子ども図書館の使命

愛を必要としている不幸な子どもたちに仕え、互いに愛し合うこと。
悲しみの中にある子たちに喜びを、傷ついた心に癒やしをあたえ、
互いの文化を分かちあい、一つの家族として生きること、
そして夢をかなえて平和な世界を作ること。

子どもたちの 生きる力は！

松居友さんが今年もミンダナオの子どもたちを連れて、勝福寺を訪れてくれました。



第一部・松居友さん講演

4月25日昼前、清々しく晴れ上がった青空のもと、一行14名が湯布院の見成寺から到着。宇佐組の解放研修を兼ねた、「松居友さんの講演とミンダナオの子どもたちの歌と踊り」のイベントでした。

「ミンダナオの子ども、日本の子ども 生きるかって何だろう」と題して、松居友さんが、テレビ放映されたビデオを見ながら、お話をしてくれました。友さんは子どもたちの父親のようですし、子どもたちの人懐っこさ、キラキラした生活をみる事が出来ました。

ミンダナオ島では長いこと内戦が続いており、親や親戚を亡くした子供たちもいます。一部では今も銃撃戦があるようですが、ミンダナオ子ども図書館のあるキダパワン市は安全だそうで、「大歓迎しますからぜひ来てください」とのことです。

第二部・ミンダナオの歌と踊り

民族衣装は、あでやかできらびやか。伝統の歌と踊りはテンポよく、竹を使った踊りには足がはさまれないようにとヒヤヒヤ、楽しい一時を過ごしました。



第三部・交流会



夜はカレー（豚肉系は一切ダメ）とサラダを中心にした料理。ミンダナオの子供たちは、魚と鶏肉の料理を作ってくれました。



先住民族、イスラム、クリスチャンと宗教は違っても大変仲の良い子どもたちです。お互いの宗教を尊重しあっている姿が垣間見えました。



ご協力ありがとうございました

宇佐組の婦人会・坊守会に勝福寺のご門徒さんが協力して、食事の準備や会場づくりなどを手伝って下さいました。

事前の打ち合わせで、勝福寺さんが「今年は当寺に宿泊してもらおう」と表明、過ごし良い季節で、敷布団と毛布だけで事足りました。

夜は「まほろば温泉」さんのご好意で、無料で温泉に入れてもらいました。ミンダナオの子供たちには生まれて初めてのお風呂経験でした。



ミンダナオ子ども図書館に送る、古着靴に靴・おもちゃ・ぬいぐるみ等も、たくさん寄付して下さいありがとうございました。勝福寺の一部屋が品物で埋まり、通れなくなるほどでした。（段ボールの大12個）

これを機会にミンダナオの子ども図書館に寄り添っていきたく思っています。皆さまのご協力をお願いいたします。

なお会場でいただいたカンパは 34,600円ありました。宇佐組と勝福寺からの御礼と合わせて、ミンダナオ子ども図書館に贈呈いたしました。

